



未来心

第35号

平成27年
11月10日

職場紹介

入退院支援室 紹介

看護部次長・入退院支援室長 永安 千春

平成27年4月から、広島記念病院では病床の効率化を図り、入院前から退院まで患者さま及びご家族が安心して医療が受けられることを目的に、患者支援センターを設置しました(資料1)。

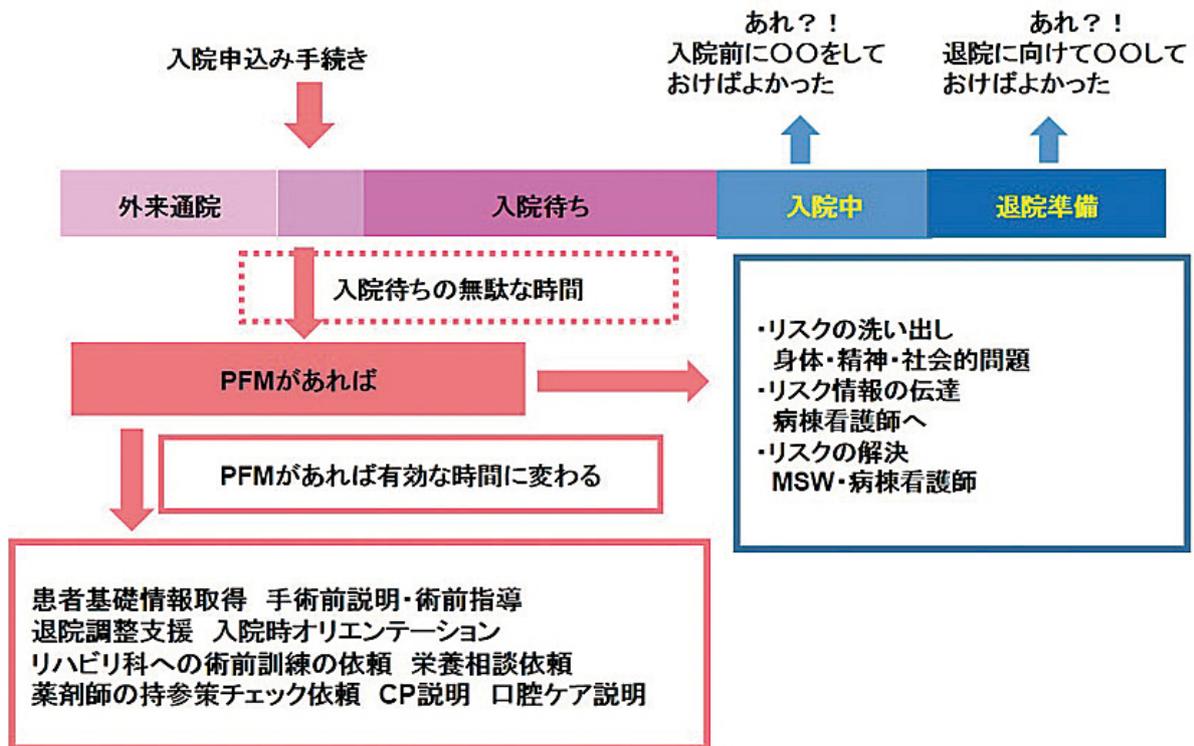
患者支援センターは隅井副院長をセンター長とし、地域連携室(平成13年から運用)・患者相談支援室(平成24年から運用)・入退院支援室(平成26年7月から運用)の3つの部門で構成されています。3つの部門は互いに連携協働し、入退院支援を行なっています。

入退院支援室は、平成27年5月から看護師1名から2名配置となり、場所を患者支援相談室(1階)から外科待合室一部(2階)に移動しました。それに伴い、新たにPFM(Patient Flow Management)システムを取り入れた入退院支援を開始しました。



PFM (Patient Flow Management) システムとは

入院前に可能な限り情報収集を行ない、入院時から退院後の生活を予測し、身体的・精神的・社会的に安心して医療が受けられ、在宅復帰がスムーズにできるよう多職種で支援する システムです。



入退院支援室運用

目的

入院前から退院まで患者及び家族が、安心して医療が受けられるよう支援する。

目標

- 入院決定時から安心して治療に臨め、適切な医療が受けられる。
- 面談を通して身体的・社会的経済面の情報収集を行う。
- 問題と考えることを解決できるように、チームで情報収集を行う。
- 患者の状態や状況に応じて効果的な臨床管理を行う。

対象患者

- 入院予約患者（入院予約が決定した患者）
- 当日入院患者（受診当日に入院が決定した患者）
- 未受診入院予約患者（電話予約等で入院が決定した未受診の予約患者）

構成メンバー

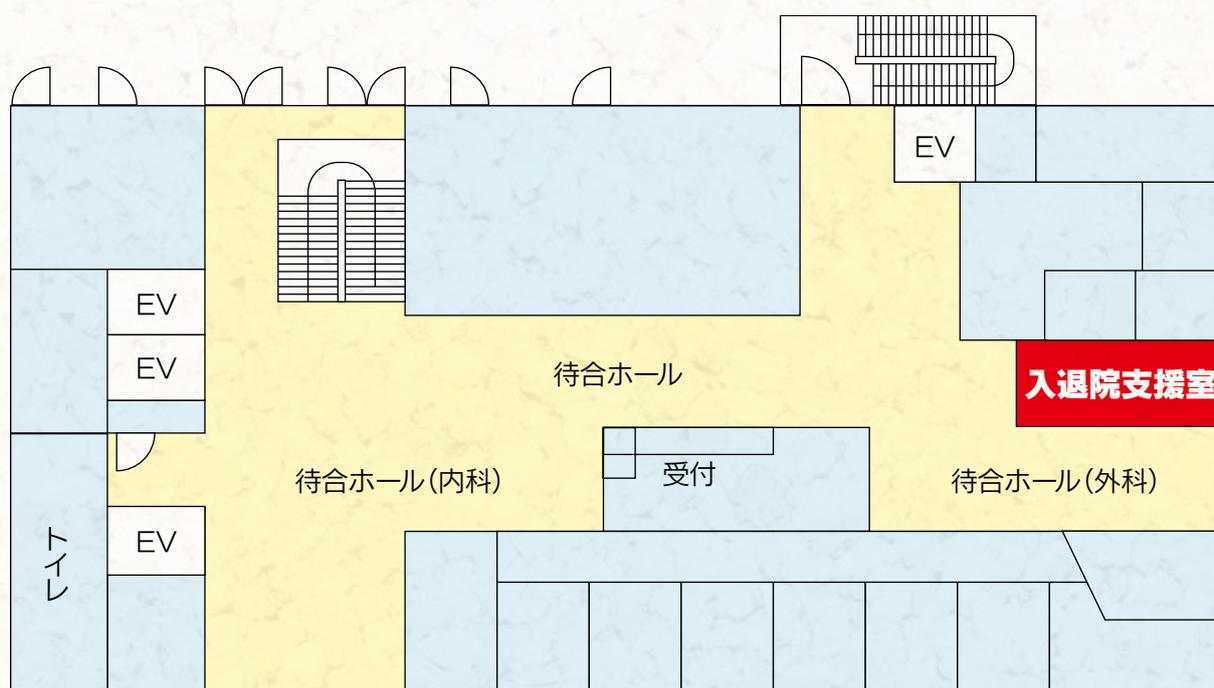
- 室長：看護部次長
看護師：常勤看護師 1 名
非常勤看護師 1 名
診療録管理士 1 名（勤務時）
必要時：薬剤師 MSW 栄養士
医事課 PT



業務

- ①患者への説明：入院に関すること・各種検査に関すること・手術に関すること・医療費に関すること 等
- ②指導：食事・口腔ケア・呼吸訓練 等
- ③入院時間診：アナムネ・スクリーニング（転倒転落・NST・退院支援）
- ④入院に対する不安等の有無の確認
- ⑤身体的・精神的・社会的側面から問題点
- ⑥持参薬チェック依頼（中止薬について、外来担当薬剤師から説明）

入退院支援室は、患者様・ご家族が「今後の生き方」「生活のあり方」を自己決定していくことができるよう、支援していきたいと考えています。また、入院前から安心して医療が受けられるよう、他職種と連携しながら一貫した支援をしていきたいと考えています。



2階

7病棟 紹介 補い合う体制をつくり“気づき力”を高める

7病棟看護師 棚田 麻友美

7病棟は栗栖師長を中心に、両徳主任、赤尾副主任を始め31名の看護師、4名の看護補助者、1名のクラークで構成されています。7病棟は消化器疾患の患者様の他、眼科の手術、肺炎、糖尿病教育入院の患者様など、様々な疾患の治療をされる方の看護やケアを行うオールマイティな病棟です。寝たきり患者様のADL介助も多く、日々リーダーナースの元、受け持ち看護師、補完ナース、看護補助者、クラーク全員がお互い協力し、声を掛けあいながら助け合って働いています。お互いがお互いを思いやる素敵なメンバーです！

7階ナースステーション

7病棟を支えるメンバー

7階の看護スタッフです。みなさんどうぞよろしく。

師長 栗栖 稲子	主任 両徳 和	副主任 赤尾 真理子	看護 江口 紀輝
看護 橋本 泰司	藤田 孝子	本田 亮子	岡部 恭子
奥邊 香織	定利 真実	本川 菜奈恵	加藤 英子
山口 愛美	長峯 未央	森本 ひずる	内田 奈緒子
川端 理佐	棚田 麻友美	増田 梨紗	泊田 杏実
坂井 理沙	外村 由美	廣瀬 久美子	荒谷 優紀
松板 加純	小林 亜衣	西本 佳奈子	山村 香里
白石 さみれ	吉川 志保美		
看護 坂本 美奈	看護 石田 伸江	看護 棚田 理枝	看護 阿部 千尋
クラーク 土井 千冬			



クラーク土井さん



頼れる両徳和主任と赤尾真理子副主任



いつも優しい栗栖稲子師長



看護補助者 坂本さん、石田さん、梶田さん、阿部さん



病棟運営目標

7病棟では看護部運営目標を基に、「**補い合う体制をつくり“気づき力”を高める**」をモットーに以下の病棟運営目標を掲げています。

患者の立場でつなぐチーム医療の実践

1. 院内連携の強化
 - 1) 外来・一般病棟・地域包括ケア病棟・PFMの活用
 - 2) 退院時看護記録の充実
 - 3) 看護サマリの充実
2. 院外連携の強化
 - 1) 転院前訪問・看護訪問



1. 専門職能力向上のための自己研鑽

- 1) 2) ポートフォリオ（自分の能力を周囲に伝えるための自己作品集）やeラーニングを活用し自己研鑽を行っています。
- 3) 院外研修に参加するだけでなく、それを伝達講習することで、メンバー全員で学びを共有しています。

働き方の改善

1. PNSの効果的運用
 - 1) デイリーダー補完の役割
 - 2) 「働きやすさ」の意識調査
 - 3) 5S活動



7病棟の新人さん

とってもフレッシュな新人さん！今年度は新採用者として7名の新人さんが7病棟に来てくれました。毎日忙しい中頑張って働いています。そろそろ先輩に見てもらいながら動く「シャドー」の時期。成長した姿を見せてください。忘年会もよろしく！

1. 院内連携の強化

- 1) 医師参加を含む、他職種とのカンファレンス6件/年、転院前、転棟、在宅支援を対象とした退院前合同カンファレンス3件/年を目標としています。
- 2) 3) 退院時看護記録、看護サマ리를充実させるために、看護師全員が統一された方法で必要な情報を記載できるよう学習会や監査を実施しています。

2. 院外連携の強化

- 1) 院外連携の実際を知り、その後の看護に活かすために記念寿研修・訪問、院外訪問を実施しています。

主体的なキャリアアップ

1. 専門職能力向上のための自己研鑽
 - 1) ポートフォリオの活用
 - 2) eラーニングの活用
 - 3) 院外研修に参加し学びの共有

1. PNSの効果的運用

- 1) 2) 病棟目標を受けて、H27年度TQMの取組みとして「マネジメント能力の向上を目指して～忙しさをコントロール～」を実践しています。PNSフローシートを用いてスタッフは進捗状況報告、リーダーは残務報告を行い、定時退勤ペアが作れるようマネジメントしていきます。
- 3) 患者様の療養環境を快適にするために看護ラウンドの実施、病棟スタッフ全員が5S活動を行っています。



清掃ボランティアに参加して

医療情報室 足利 早紀

平成 27 年 7 月 25 日(土)に行われた地域清掃活動に参加しました。この活動は、広島記念病院の職員が自主的に行っており、今回で4回目を迎えました。医師、薬剤師、看護師、放射線技師、検査技師、理学療法士、栄養士、事務員の計8職種、26名の職員が参加し、5つの班に分かれて、広島記念病院周辺の担当のエリアを清掃しました。

当日は晴天で気温も高かったため、予定よりも少し早めに清掃活動が開始されました。タバコのポイ捨てが一番多く、その他に、ペットボトルやプラスチック容器、チラシ等を拾いました。清掃中は「こんなところにスーパーがある。お寺がある。公園がある。」等、多くの発見をしました。私は広島に来て間もないので、町探検も兼ねての楽しい清掃活動となり、病院のある地域を知る良い機会となりました。また、普段交流の少ない方々とも清掃活動を通して、関わりを持つことができました。暑かったですが、地域をきれいにすることができ、気持ちが良かったです。

清掃後は、病院の近くのお店でお疲れ様会が開かれ、様々な職種の方々とお話しすることができました。私にとって有意義な1日となり、良い経験をさせていただきました。今後も、こういった活動を通して、地域に貢献していけたらと思います。

最後に、このような企画をしてくださいました隅井副院長、本当にありがとうございました。



看護学生のインターンシップをはじめました。

看護部長 江村 陽子

インターンシップとは、就業体験です。

当病院において、卒業予定の看護学生の皆さんを対象に、本院をより身近に感じ、理解していただくために実際の看護の職場環境を体験し、就職活動の一環として活用していただきたいと考えています。

「卒業したらどこに勤めよう?」「どんな病院が自分に合うのだろうか?」

そんな疑問は誰もが抱くもの。決めてしまう前に、インターンシップで看護の現場を体験してみませんか?

インターンシップの目的

1. 当院の急性期一般病棟での看護師の役割を理解する。
2. 実際の看護ケア・職員とのコミュニケーションを通し、仕事のやりがい楽しさを体験する。
3. 就職先選択の参考にする。

対象者

平成27年度3月卒業予定の看護学生

実施日・参加人数

- 1日コース：平成27年7月29日、30日 7名参加
2日コース：平成27年8月26日～27日 3名参加



上記内容で、実施しました。

看護学生より、「実際の看護ケアを看護師とともに経験できてよかった」「看護師同士の声かけや情報のやりとりがよくわかり、チームワークの良さが見えた」「退院時カンファレンスを見学し、他職種連携が見えた」等の声を聞くことができた。そして、1年目・2年目の先輩方と食事を囲んでの話であったり、フリーディスカッションの時間を作り、病院説明会だけでは聞けない部分を聞くことができとても有意義だったとの声も聞かれた。

実際の雰囲気や、職員間のコミュニケーションを通じて、当院をより知って頂くことができた、貴重な職場体験であったと思います。

次回のインターンシップは、平成28年3月を予定しています。



平成27年度 ふれあい看護体験

看護部長 江村 陽子

日時：平成27年8月5日（水）10：00～14：20

参加者：高校生2名（高校1年生と2年生）

ナイチンゲールの誕生日の5月12日に、「看護の日」が制定され、記念行事として看護の日に健康相談等のイベントを行い、夏休みを利用して「ふれあい看護体験」を実施しています。

今年のふれあい看護体験は、自己紹介後、看護についてより理解を深めていただく為に、看護協会作成の『キラリ看護のシゴト』のDVDを鑑賞しました。

その後、病棟で手浴・足浴・散歩・配食を看護師と一緒にやり、患者様と直接お話をするなど、貴重な看護体験をおこないました。

昼食は、病院食について栄養科長の話を聞き、患者様と同じ病院食（常食）を試食して頂き、食事も治療の一環であるということを理解する事ができました。

午後は、隣接の介護老人保健施設“記念寿”での見学を行い、移動売店で買い物のお手伝いをしました。入所者と触れ合うことができ、これからますます高齢化を迎える社会で、病院とは違う貴重な体験ができたと思います。

最初の挨拶では、将来のことは決めていないと言っていた参加者も、「患者さんからの感謝の声をきいて、達成感があった」「看護師もいいなと思うようになり、選択肢の一つになった」という声を聞くことができました。このふれあい看護体験が少しでも看護師という職業を身近に感じ、興味を示していただければと思います。



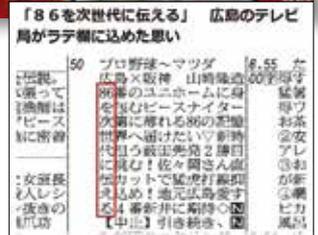
8月6日ピースナイター

医療情報室 千代延 篤志

平成27年8月6日(木)、親和会行事としてマツダズームズームスタジアムのパーティーフロアで野球観戦を行いました。人気のパーティーフロアからの観戦は、個人ではなかなか予約が難しい座席だけに、例年大変好評を集めている企画です。

またこの日は8月6日ということで、広島にとって特別な日であり、さらに被爆から70年という節目を迎えたことから「ピースナイター」として催されました。広島の監督、コーチ、選手全員が8月6日を示す背番号「86」、胸には「PEACE」のロゴ、帽子には平和を表すハトのロゴが入った特別ユニフォームを着用し試合を行いました。またこの試合は、半旗を掲げ、鳴り物応援も禁止という特別な雰囲気での試合でした。

残念ながら試合は8対2で阪神に敗れてしまいましたが、「8月6日」に対する想いや歴史を継承し、次世代に引き継ぎきっかけとなったと思います。



夏期巡回ラジオ体操・みんなの体操

栄養科 北野 旭美

全国を巡回しているラジオ体操の公開収録が被爆70年ということで8月17日(月)、本川小学校にやってきました。本川小学校から生放送が行われたのです！（といってもラジオなので音声だけです）

当日は本川小学校の児童、保護者、近隣住民など1000人以上が集まりました。当院からも職員が参加させていただきました。また看護師1名が救護班として、参加者の体調管理にあたりました。

伴奏は被爆ピアノで行われ、ラジオでもそのことが伝えられていました。収録本番前にはかけ声の練習、拍手の練習も行われ、公開収録ならではの雰囲気を味わうことができました。収録後には体操のワンポイントアドバイスもあり、朝からしっかり身体を動かした後、さわやかな気持ちで出勤することができました。



TQM 活動報告

栄養科 北野 旭美

平成25年度よりTQM (Total Quality Management) として病院全体の質 (医療の質、患者サービス) の向上に取り組み、今年度で3回目となりました。

まずは、前年度 (第2回) TQMの結果を第3位まで報告します。第1回TQMに続き、第2回も栄養科が1位となり、見事連覇を達成しました。

1位

栄養科 『軟食改革 ~高齢者にやさしい食事に~』

咀嚼能力の低下した患者様 (特に高齢の患者様) に提供していた軟食を見直しました。調理には必要に応じて圧力鍋を用い、切り方にも工夫をすることで、よりやわらかく、食べやすい食事にすることができました。また、口の中でばらけやすく食塊形成が難しいといわれている刻み食についても見直しました。包丁で刻むだけでなく「つぶし棒」を導入し、増粘剤も使用することによって口の中でのまとまりやすさや飲み込みやすさを配慮した形態に改善しました。



2位

中央検査室 『検査データのみかた』

病院で行われている検査データを患者様により理解していただくため「検査のみかた」の冊子を作成しました。掲載する検査項目については医師や看護師に行ったアンケート結果を参考にしました。部署内で検討を重ねて完成した冊子は、2週間で約100部が患者様の手に渡り、需要の高さがうかがえました。



アンケート結果

項目	回答数	有効回答数
検査項目	20	15
検査項目	15	10
検査項目	10	8
検査項目	8	6
検査項目	6	4
検査項目	4	3
検査項目	3	2
検査項目	2	1
検査項目	1	0
検査項目	0	0

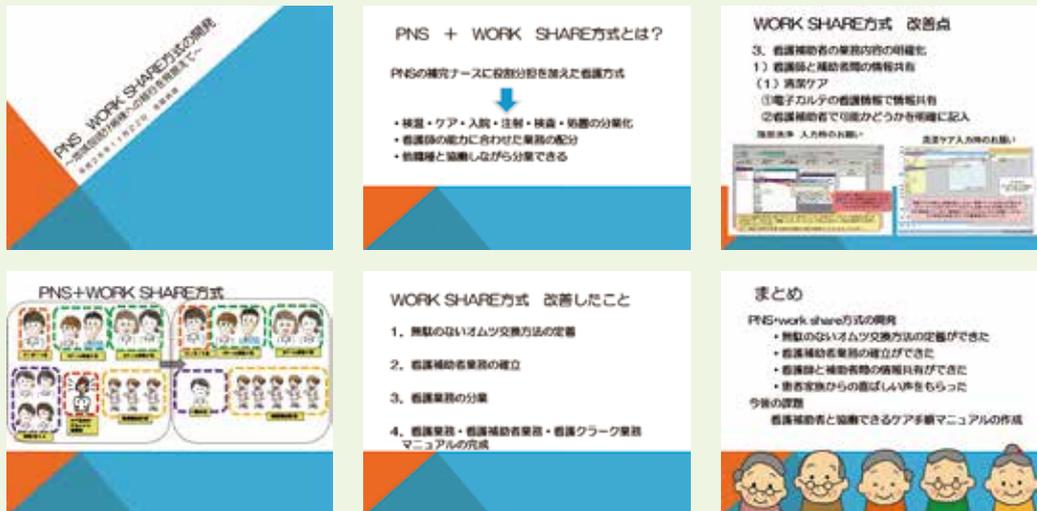


3位

8病棟 『PNS WORK SHARE方式の開発

～地域包括ケア病棟への移行を見据えて～』

平成27年度より地域包括ケア病棟へ移行する8病棟が、より効果的に仕事ができる体制作りに取り組みました。これまではPNS(パートナーシップ・ナーシング・システム)方式で看護を行ってききましたが、地域包括ケア病棟に移行後は7対1から13対1に看護基準が変更となるため、PNSのみでは業務が成り立たなくなります。そこでPNSの良さを活かしながら、看護補助者を含めたスタッフで業務分担を行う体制を生み出し、ADL介助の多い病棟であっても細かなケアができるようになりました。



今年度(第3回)TQMは平成27年5月に計画発表会が行われ、16部署のエントリーがありました。計画に沿ってそれぞれの部署で取り組んでいることと思われます。成果報告会は平成27年12月5日(土)に予定されています。普段なかなか知ることのできない他部署の取り組みを知る良い機会となりますので、院内の皆様は是非ご参加をお願いします。

平成27年度(第3回)TQM エントリー一覧

No.	部署名	題名
1	薬局	処方支援業務(CDTM)導入に向けて
2	老健	まっいっぺん KNJ48 ～新体制の下でのチャレンジ～
3	5病棟	Enjoy Working ～褒めちぎりカードを活用して～
4	栄養科	新鮮食材で患者さんにおいしい食事を
5	8病棟	地域に帰そう! 私たちの手で!!
6	7病棟	マネージメント能力の向上を目指して
7	リハビリテーション	リハビリテーション科には何が出来るか?
8	6病棟	SPD 貼り忘れなくし隊
9	医療情報室	文書管理のバーコード管理
10	中央検査室	「検査のご案内」の作成
11	放射線科	検査のご案内
12	庶務課	マイナンバー制度
13	医事課	マイティチェッカーの精度アップ
14	地域連携室	退院調整看護師誕生!!!
15	外来・入退院支援室	継続して患者を支援していくための体制づくり
16	医局	患者様からの声を医局に伝えるために

地域医療従事者研修会報告① NST

日 時：平成27年7月23日（木）18：30～19：30

テーマ・講師：地域連携 当院NSTの取り組み

「胃瘻（腸瘻）を取り巻く環境」

「食事形態の情報を伝えよう！つなげよう！」

「家族と共に目指せ！自宅退院!!」

外科医師	坂下	吉弘
管理栄養士	北野	旭美
内科医師	炭田	知宜
看護師	大庭	鮎美

「胃瘻（腸瘻）を取り巻く環境」

外科医師 坂下 吉弘

当院の胃瘻造設件数の推移、地域連携で直面している問題についてお話させていただきました。平成26年度の診療報酬改定より胃瘻造設術の点数が引き下げとなりました。しかし、造設前に嚥下機能検査をするとそれに対する報酬が新設となったのも大きな特徴です。つまりこの診療報酬改定のねらいは、安易な胃瘻造設を抑制し、口から食べることへの支援を強化することであると考えます。当院での胃瘻造設件数は平成22年度をピークに、23年度より減少傾向、24年度以降は横ばいの経過となっております。連携に関しては、施設によっては胃瘻患者の受け入れには制限がある、PTEGや腸瘻の管理が難しいので受け入れができないといった問題も出てきております。施設毎の対応状況等を把握していくことが連携には重要なことではないかと考えております。



「食事形態の情報を伝えよう！つなげよう！」

管理栄養士 北野 旭美

食事形態の名称（きざみ、嚥下食Ⅲなど）は施設毎の基準であることが多いため施設間連携の際には注意が必要であること、特に嚥下調整食に関しては摂食嚥下リハビリテーション学会が2013年に基準を作成し、それに基づいた対応が今後必要になってくることをお話しさせていただきました。また、食事形態の調整が必要な患者様が自宅に帰られる際には、介護者による食事調整が必要ですが、困難な場合も多いことから市販品や配食サービスの利用についても情報提供させていただきました。ロビーで嚥下調整食の展示や試食を実施し、より身近に嚥下調整食や介護食を感じていただけたのではないかと思います。



「家族と共に目指せ！自宅退院!!」

内科医師 炭田 知宜・看護師 大庭 鮎美

当院で胃瘻造設後に注入指導や在宅サービスの調整を行い、円滑に自宅退院された事例をさせていただきました。この事例では半固形の栄養剤を使用し、注入には加圧バッグを用いて介護者の負担の軽減を図りました。当院では平成27年度より地域包括ケア病棟を立ち上げました。地域包括ケア病棟では、「地域に帰そう、私たちの手で」をスローガンに日々取り組んでおります。この事例では退院前に家族、地域のスタッフ、当院のスタッフで合同カンファレンスを開催しました。在宅での生活を支えてくださる地域のスタッフとの連携の重要性を強く感じる事ができた事例でした。



地域医療従事者研修会報告② がんリハビリテーション

日 時：平成 27 年 8 月 21 日（金） 18：30 ～ 19：30

テーマ：「がんリハビリテーション ～周術期リハから緩和的リハまで～」

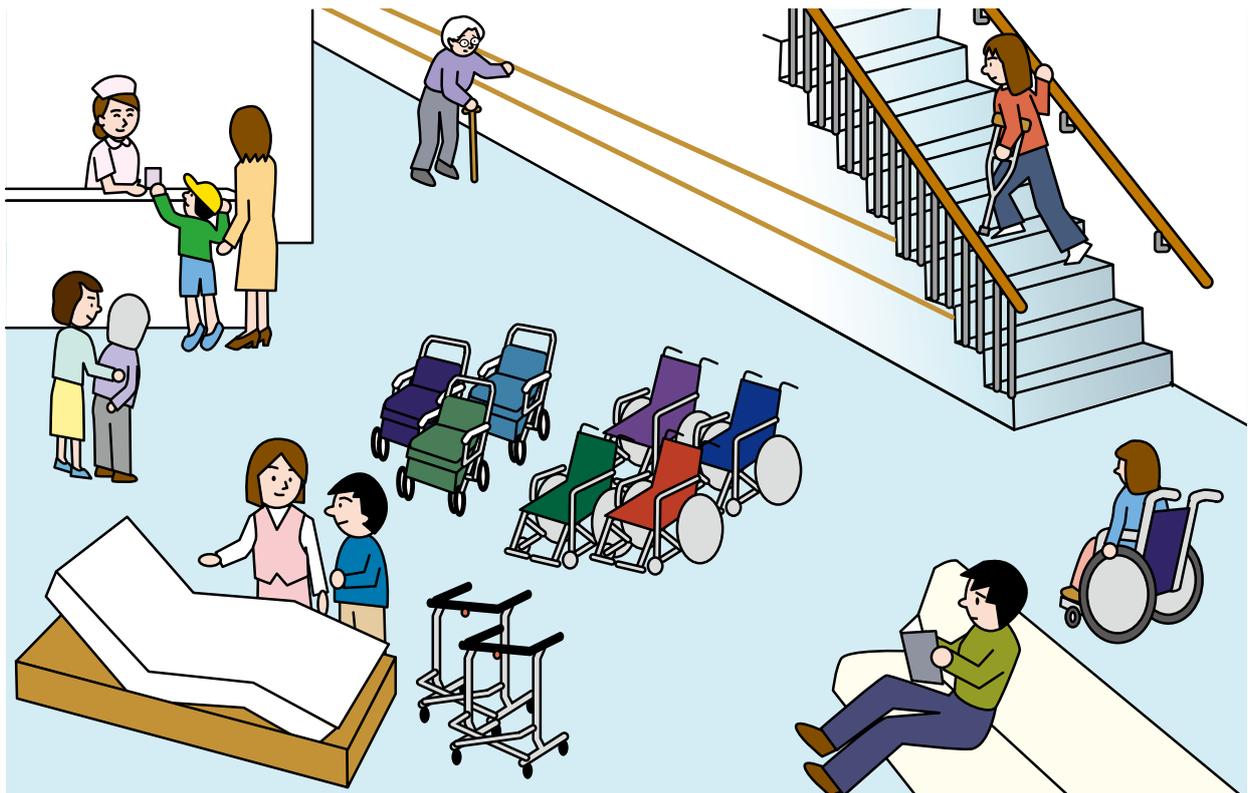
講 師：新小倉病院 リハビリテーション科 入江 将考 先生

今回の地域医療従事者研修会は、周術期リハから緩和的リハまでのがんのリハビリテーションについて、お話して頂きました。

もともと、当院にはリハビリがなく、手術前の呼吸訓練や筋力トレーニングの指導は看護師が行っていましたが、この度、平成26年12月からがんリハビリテーションの提供を開始すると、リハビリの力はすごいと臨床現場のスタッフより聞くようになりました。そこで、リハビリについてもっと理解し、患者を中心にした総合的アプローチを推進していくために、研修会を企画しました。

講師は、先駆的な臨床・研究をされておられる、新小倉病院理学療法士の入江将考先生にお願いし、周術期から緩和的までのリハビリテーションについて講演して頂きました。

当院で行うリハビリテーションを中心に講演して頂きましたが、今回の参加施設は9病院・11の在宅系のPT（理学療法士）OT（作業療法士）看護師等の方々にご参加いただきました。在宅でのPTの介入は病院と違い週一回のこともあり、その場合の介入方法について質問があり、先生からは、介入してない日の日常生活活動を増やす方法を計画する必要があるとの説明がありました。在宅でのリハビリを含め、各分野でのリハビリは、患者のQOLに貢献できることが理解できた研修会となりました。



地域医療従事者研修会報告③ 薬薬連携の会

日 時：平成27年9月3日（木）19：00～20：00

テーマ：薬薬連携の会 ～安全な薬物療法を推進するために～

- 1.当院の化学療法レジメンと副作用マネジメントについて
- 2.検査値記載の院外処方箋発行に向けて
- 3.疑義照会の実際

講 師：広島記念病院 薬局長 古元 俊徳

今回の地域医療従事者研修会は、“安全な薬物療法を推進するために”を目的に、薬薬連携の会を薬剤部が中心に企画しました。

はじめに、当院の化学療法レジメンと副作用マネジメントについて当院の薬局長古元俊徳が説明しました。病院内で治療、処方の全てが行われていた時代から、医薬分業が進展し、当院も平成15年より院外処方を発行しています。調剤薬局（かかりつけ薬局）の機能が確立しているなかではありますが、「患者様の行われている治療内容が十分に把握しにくい」「薬剤の処方意図が分からない時がある」などの問題点が指摘されており、安全な薬物療法を推進するためにも、薬薬連携が、益々重要になってきていると感じました。

続いて本題である検査値記載の院外処方箋発行に向けての取り組みの内容を紹介しました。

薬は、用法・用量に十分注意しなくてはいけません、実際に薬を渡す薬剤師には、検査値データが分からないのが現状です。患者様の安全を守る為としては当然のこと、医療者の為にも、検査値記載の院外処方箋発行の実現が望まれることが理解できました。

最後に、直近4カ月の院外疑義照会件数と内訳を佐々木紀彰薬剤師が報告しました。照会により患者様の安全な薬剤投与が行われるのであって、安全な薬物療法を推進するためには情報交換できる体制が大切であることがよく理解できました。今後の展開に注目する薬薬連携の会となりました。



地域医療従事者研修会報告④ 看-看セミナー

日 時：平成 27 年 9 月 24 日 (木) 18:00 ~ 19:30

テーマ：「広島記念病院の地域包括ケア病棟 ～患者の立場で繋ぐチーム医療の実践～」

広島記念病院では、平成27年4月1日より、急性期治療を終了し病状が安定した患者さまに対し、在宅復帰に向けて医療や支援準備できる地域包括ケア病棟を開設いたしました。今回の地域医療従事者研修会は、“患者の立場で繋ぐ”ことを大切にしている地域包括ケア病棟の実際を知っていただくため、以下の構成で紹介させていただきました。

- 一部 地域包括ケア病棟へ転換の目的・経緯 看護部次長：永安 千春
- 二部 地域包括病棟の機能を生かした退院支援の実際 退院支援専任看護師：山中 礼依
- 三部 地域包括ケア病棟 スタッフインタビュー
病棟担当医師：坂下 吉弘 病棟師長：白石 和加枝 病棟主任：沖本 由布子
診療情報管理士：兼森 聖子 認定看護師：森本 純子 坂田 温子
MSW：今中 真弓 PT：井上 恭子
- 四部 意見交換

患者・家族の要望に応えながら在宅療養を支援している地域の医療関係者に、当院の地域包括ケア病棟を知っていただく機会となり、連携強化を進める上で有意義な研修会になったと考えます。

アンケートからは、「具体的に各担当者からの意見を聞き、工夫点が参考になった」「地域包括ケア病棟の運用・看護・医療の対応を理解できた」など取り組みについての感想と、「患者の立場でということが考えにくくなっている中で、改めて大切さを感じることができた」「職員が患者家族は、地域でどのように生活しているのかを考えられる風土づくりの大切を学んだ」など職員の育成に関する感想をいただきました。

地域で住み続けられる患者を支援し“ときどき入院 ほぼ地域（在宅・施設）”を目指していきたいと考えます。



スタッフインタビュー 医師の立場から



退院支援の実際を語る 退院支援専任看護師

広島記念病院「理念」「憲章」

理 念

患者の皆様が、安心して受診できる、やすらぎの環境及び満足と信頼が得られる最良の医療サービスを提供する。

憲 章

1. 私達は、「癒しの心」を医療の心として職務に専念します。
2. 私達は、患者様の人権と意思を最大限に尊重し、納得と同意に基づいた全人的医療を目指します。
3. 私達は、日々自己研鑽に励み、良質で温もりのある、地域に密着した医療を心がけます。
4. 私達は、地域医療体系に参加し各々の持てる機能の連携により、より合理的で効率的な良質の医療に努めます。



地域連携室

TEL 082 (503) 0730
FAX 082 (503) 1010

内科・外科

FAX 082 (503) 0722

5病棟

FAX 082 (503) 1015

6病棟

FAX 082 (503) 1016

婦人科・小児科

FAX 082 (503) 0723

7病棟

FAX 082 (503) 1017

代表 広島記念病院

TEL 082 (292) 1271
FAX 082 (292) 8175

耳鼻科・皮膚科・泌尿器科

FAX 082 (503) 0731

8病棟

FAX 082 (503) 1018

外来診療担当表

平成27年9月29日現在

診療科	受付時間	区 分	月	火	水	木	金	土
内 科	8:30~11:00	一 診	隅 井	山 本	隅 井	隅 井	城 戸	当番医
		二 診	江 口	田 村	城 戸	江 口	田 村	
		三 診	炭 田	阿座上	炭 田	阿座上	山 本	
		四 診		山 田		山 田		
総合診療科	8:30~11:00		横 崎	菊 地			休 診	
外 科	8:30~11:00	一 診	宮 本	横 山	坂 下	宮 本	坂 下	当番医
		二 診	首 藤	小 林	首 藤	横 山	小 林	
		三 診						
婦人科	8:30~11:00	一 診	横 田	横 田	横 田	横 田	横 田	休 診
	13:00~14:30	一 診	横 田			横 田		
小児科	8:30~11:00	一般診療	岸		岸	岸	岸	
	13:00~13:30	健診・ 予防接種	予防接種	乳児健診(予約) (第1・3(火)のみ)	予約検査	予約検査	予防接種	
	14:30~16:00	一般診療	広大医師	藤井(裕)		岸	岸	
耳鼻 咽喉科	8:30~11:00	一 診	長 田		長 田		岡林、又 は久保田	
皮膚科	8:30~11:00		松 尾				森 脇	
泌尿器科	8:30~11:00			井 上		神 明	藤井(慎)	
眼 科	8:30~11:00	一 診	金 本	金 本	金 本	金 本	定 秀	
		二 診		藤 東		藤 東		
広島記念診療所 歯 科	8:30~11:00		山 田	山 田	山 田	山 田	山 田	電話番号 294-7858
	13:00~16:00		山 田	山 田	山 田	山 田	山 田	
ストマ外来 (皮膚・排泄 ケア認定看護師)	8:30~11:00			森 本			森 本	
	13:00~14:30				森 本	森 本		

* (注) 土曜日は休診ですが、内科一診、外科一診は診察しております。
歯科を除く各科とも再診は7:30から受付けています。

部分は女性医師です。

広島記念病院案内図



交通のご案内

JR 広島駅より市内電車宮島行き・己斐行・江波行にて、
本川町電停下車、南へ100メートル徒歩1分
広島バス商工センター行き・祇園大橋行きにて
本川町電停下車、南へ100メートル徒歩1分
広島駅前よりタクシーで約10分

駐車場

立体駐車場 72台、平面駐車場 10台

身障者専用駐車場 3台

詳細は病院ホームページをご覧ください